

令和 6 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 双 星 高 等 学 校

令和6年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

- 1 教育・学習内容や補習、ICT機器活用の取組を充実させ、学力を着実に向上させながら、より高い志をもって志望職種、志望大学受験に臨み、合格することを多面的に支援する。
- 2 望ましい生活習慣を確立させ、生涯にわたって夢と志を持ち続け、自己実現を図りながら社会に貢献していこうとする態度を養う。
- 3 自己や他者の命の尊厳を守る意識・態度を涵養し、人間関係能力を向上させるとともに、防災教育・安全教育を強化し危機管理能力の向上を図る。
- 4 オープンハイスクール、学校行事、ホームページ、さらには学校評議員会や学校評価を通して学校教育活動や運営状況の広報・発信に努め、保護者や地域社会との連携を深めることによって、開かれた学校づくりを推進する。

学校教育に関する重点取組

Ⅰ 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		3.2	3.3
取 組	成 果	課題と改善策	
長期休業日や放課後に補習を実施し、学力向上に日々努力する。(教務部)	夏期講習を実施した。	生徒の多様なニーズに対応するためには人員、場所の確保、時間調整がさらに必要となる。	
総合的な探究の時間において、教員研修を実施し、職員の理解を深めることによって、生徒の能力を高める授業の実践を目指す。(教務部)	教員研修を行った。	1回で終わるのではなく継続的に教員研修を実施し、総合的な探究の時間を学校全体のこととして取り組む必要がある。	
「ほけんだより」の発行により、健康的な日常生活が送れるように情報発信等を行う。(保健部)	健康診断実施時期を除いて、保健だよりの定期的な発行ができた。	より時事的な内容となるように、内容を検討していきたい。	
1年生全員に図書館見学を実施し、充実した図書館に興味を持たせるとともに、スタンプカードに取り組ませ、読書習慣を育成する。「図書館だより」を定期的に発行し、新着図書を紹介していくとともに、図書委員が主体となる企画(ビブリオバトルなど)を実施し、図書館利用者、貸出者・貸出冊数の増加を図る。(図書部)	1年生全員に図書館見学を実施したが、短時間だった。図書委員会の企画としてはじめてビブリオバトルに取り組み、生徒たちに読書活動への興味と関心を高めることができた。図書館利用者、貸出者・貸出冊数は例年並みだった。	1年生図書館見学を放課後やLHRなどに実施したい。ビブリオバトルなどの企画を、クラス・学校全体で取り組み、図書館利用者増加、読書活動推進、読書習慣育成のつなげていく。	
全校生徒に読書感想文を募集し、積極的に提出された作品の中から、優秀な作品(学校代表)を選出し、「青少年読書感想文コンクール兵庫県阪神高校支部」に応募する。その他の公募、読書感想画コンクールにも、希望者を応募させる。(図書部)	校内に提出された読書感想文は20作品だったが、優秀な作品が多く、2作品を「青少年読書感想文コンクール兵庫県阪神高校支部」に応募した。「読書感想画コンクール」にも、優秀な作品1点を応募した。	「読書感想文コンクール」「読書感想画コンクール」に、多くの生徒を取り組ませる。	
3学期に実施する「マラソン大会」に向けて年明けから体育の授業で持久走に取り組む。(保健体育科)	生徒一人ひとりが自分に合った目標設定を行い、目標に向けて努力させることを目指す。マラソン大会でその成果を発揮することにより、達成感や体力の向上を実感させる。	日常生活で運動する機会の少ない生徒が増えており、体力の低下が著しい。生徒の体調と体力を考慮し、活動状況を確認しながら、徐々に運動量を上げていく必要がある。	
音楽類型の授業ではできるだけ自ら考え、実践する授業を心がける。芸術選択では、各自が積極的に課題に取り組めるような授業を心がける。(芸術科)	自ら考え授業に臨むように生徒も、教師も工夫して取り組んだ。	ただ、言われた課題等には考え、自主的に動こうとするが、自ら課題を見つけ出して取り組むまでには至っていない。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		3.6	3.7
取 組	成 果	課題と改善策	
職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努める。(ものづくり機械科)	例年10種目程度の資格試験を行っているが、本年度もコロナ禍が過ぎてもガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、低圧電気講習を最低人数を満たせず開催できなかった。	資格取得を通して、より自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができることを理解するように努める。	
阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めさせる。(ものづくり機械科)	今年度2学年でインターンシップを実施した。3学年就職希望者の面接指導2ヶ月間で、社会人になるにあたって何が必要なのかを考えさせる指導期間になった。	課題を達成したため課題無し。	
職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努める。(電気情報科)	国家資格第一・二種電気工事士の学科・技能試験や電気通信設備工事担任者第二級デジタル・アナログ通信、第二級陸上、第二級海上、航空特殊無線技士等の指導を行い、多くの合格者を出した。	国家試験である第二種電気工事士学科試験・技能試験や電気通信設備工事担任者第二級デジタル通信・第二級アナログ通信等の国家試験に挑戦できるように、教職員の確保、授業内容の精選、施設設備の充実等を行う。	
国家資格を取得することにより、ジュニアマイスター顕彰制度表彰対象者を15%以上、うちゴールド表彰対象者3名以上を目指す。工業技術顕彰制度表彰対象者を50%以上、うち金賞5名以上を目標とする。国家資格第一・二種電気工事士・電気通信設備工事担任者第二級デジタル通信、第二級アナログ通信、第二級陸上・海上特殊無線技士・航空特殊無線技士について重点的に取り組む。加えてコンピュータネットワーク等の電気通信関係の実習を充実させていることを生かし、情報通信エンジニア資格を取得する。(電気情報科)	今年度の結果 ジュニアマイスター表彰 対象者:16.7% シルバー対象者:3名 ブロンズ対象者:3名 工業技術顕彰対象者:38.9% 銀賞対象者:2名 顕彰対象者:12名 「情報通信エンジニア」 学校の部:全国3位 優良団体表彰(10年連続)	電気・電子・通信・情報関係の仕事内容を理解を深める機会を設ける。 仕事に必要な国家資格の有用性を理解し、国家資格取得への学習意欲向上を図る。	
インターンシップの実施や卒業生の話聞く機会を設け、将来についての意識を高めさせる。(電気情報科)	広い視野の育成と実際の電気技術を知る機会として、外部講師による授業を行い、生徒の多様なニーズに対応した。 ①ドローンの資格や操縦体験を通して、業界の商戦についての講義 ②紙おむつやマスク等製造装置の設計開発業務の講義 ③消防署から火災、風水害、地震等の警防活動の実施業務の講義	多様な業種の講話を聞く機会を設けることが課題である。	
アカデミックインターンシップに参加し、学ぶことの楽しさや学習意欲の向上を図る。(電気情報科)	9月にアカデミックインターンシップを実施し、大学での学習内容を知ることによって学習意欲向上につなげることができた。	充実したガイダンス・課題・実習・施設見学を実施しているため目標は達成した。	
職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努める。(商業学科)	商業学科においては、各科目を通して、検定の受検・合格への意欲を高め、積極的に取り組むことができた。 その結果、12期生では、全商検定9種目のうち1級9科目合格3名と優秀な結果を収めている。 1・2年生も自分の進路実現のために必要な資格取得を意識し、努力している。	3学年とともに単独のクラスになったことで授業や資格取得等への取り組みがクラスとしてモチベーションを上げることが出来ているように思う。	
高大連携授業を行い、学問の面白さにふれ、学ぶことの楽しさを感じさせ、学習意欲の向上を図る。(商業学科)	今年度は兵庫県商業教育協会主催の高大連携授業への参加が中間考査とかぶり参加できなかった。 中間考査の時期が他校より遅いので時期の見直しをしてほしい。 昨年の参加生徒は大学 進学の目的やそこの学び、自らを成長させることができる環境に触れ、意欲向上につながっている。	高大連携授業として実際に大学へ足を運び、機会や大学から講師を招き、大学での学びに触れる機会をもっと増やすことで、生徒の進路選択に生かせるようにすることが課題である。大学側が実施している出張講義等を活用したり、近隣大学と連携し高大連携授業を実施することを検討したい。	
阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めさせる。(商業学科)	今年度は企業に3日間インターンシップを実施した。 社会人として必要となるマナーや基本的な知識、学校での商業の学びから実社会へのつながりを強く意識できたようである。	状況に応じて、柔軟に予定を変更するなどして、できる限り多くの機会を設けるように考えたい。	
外部講師による講話を通じて、社会的自立に向けた態度・能力の育成に努める。(商業学科)	商業学科においては、尼崎市内の企業や尼崎税務署などから講師を派遣していただき、商業の学びを深めると共に、商業の学びが実社会でどのように活かされるかを知ることができた。	状況に応じて、柔軟に予定を変更するなどして、できる限り多くの機会を設けるように考えたい。	
文化的教養を高め、豊かな情操と想像力を育成する「芸術鑑賞会」を実施する。(総務部)	12月に1年生を対象に大阪四季劇場において、ミュージカル「WICKED」を鑑賞した。	来年度も継続していく予定であるが、鑑賞料金が上がっていることもあり、継続が妥当かを引き続き、検討する必要がある。	
遅刻者に対する毎朝の別室指導や遅刻多数生徒の生活改善を促すため、「早朝登校指導」を行う。(生徒指導部)	遅刻回数に応じて指導を行い、一定の成果をあげることができた。	呼び出しに応じない、早朝登校に応じない生徒への対応・指導について改善していきたい。	
全校集会や外部より招請した講師による講話、及び全校生徒の意識を高めるための呼びかけプリントの配布などを通して、常に生徒の心への働きかけを行い、道徳性の育成に努める。(生徒指導部)	自転車指導やスマホの使い方について外部講師を招いて講話を頂き、一定の成果を上げることができた。	引き続き外部の講師を招き、必要な講演や講話を計画する。	

いじめアンケートを年3回行い、早期発見に努めている。いじめ対応チーム会議を定期的、かつ臨時に行い情報の共有を図り、対応を協議する。(生徒指導部)	いじめに関するアンケートから早期発見・早期対応できた事案もあり一定の成果を上げることができた。また、定期的な情報交換や共有、臨時会議での対応等を行い迅速に対応することができた。	いじめ対応は、早期発見と初動が大事になってくるので、引き続き情報交換や共有に努めていきたい。
生徒の自主的な進路選択を適切にサポートするとともに生徒それぞれの能力を伸長させ、将来の生活に活かせるよう指導する。(進路指導部)	自主的に進路について考える習慣がついてきている。	今後も生徒のニーズにあったものを考え実施する。
各自の進路希望に合わせたガイダンス(説明会)や個人面談を実施し、進路に関する意識を高めさせる。(進路指導部)	各学年、時期を考え適切に行った。	進路ガイダンスや面談の時期を考え適切に実施する。
外部講師の招聘や校外での研修会への参加を通じて、就職及び進学への意欲向上を図る。(進路指導部)	年間計画を立て計画的に実施した。	今後も生徒のニーズにあったものを考え実施する。
「全国模試」を定期的を実施、学習到達度を確認させるとともに進学希望者にきめ細かい指導を行う。(進路指導部)	年間計画を立て計画的に実施した。	模試の事後指導をより丁寧に行いたい。
生徒の基礎的な人権教育の理解に促進するため、本校の人権教育方針に基づいて、人権教育読書・人権教育講座等を実施し、人権教育通信を発行する。(人権教育部)	本校の人権教育方針に基づいて、人権教育講座等を実施し、概ね良好だった。人権教育通信は、人権について、いじめを防止する心構え、奨学金などについて、発行した。	人権教育講座については、講師料等の予算がなく、どうしても映像資料での講座となりがちである。本格的に幅の広い人権教育を取り組むなら、そのあたりの改善が必要かと考える。

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(１) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (２) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める			3.7	3.7
取 組	成 果	課題と改善策		
夏季休業中(特に7月下旬)に「三者面談」を実施し、学習、進路、日常生活の情報交換を密に行い、3年間を通じて保護者との連携を深める。(1、2、3学年)	夏休みの三者面談を通して、保護者と連携を深めることが出来た。また、10月には保護者会を開催し、類型・選択科目についての理解を深めていただくことが出来た。(1学年)	夏休み期間中に三者面談が出来ない保護者の対応。 →柔軟に対応し、2学期に入ってから行ったケースもあった。(1学年)		
	「三者面談」等を通じて、保護者との連携を深めることができた。(2学年)	「面談」に応じない一部保護者との情報交換に課題が残った。これに対し、こまめに電話連絡を入れるなど継続的な取り組みが必要である。(2学年)		
	夏季休業中に三者面談を行い、保護者と情報交換と進路決定に向けて有意義なものとなった。(3学年)	保護者の都合が合わない場合もあるので、夏季休業中以外にも希望者の面談期間を設けることを検討する。(3学年)		
中学生及びその保護者対象に「学校説明会」及び音楽類型体験入学を(年間計4回)開催し、本校の教育方針の説明や施設の見学を通して、本校の魅力をアピールする。また、中学校に出向いての出張説明会にも積極的に参加する。(総務部)	多くの中学生や保護者に参加してもらい、本校を知ってもらう良い機会となった。第2回からは、生徒主体で開催することができた。来年度も継続していきたい。また、校長による学校説明の動画も効果的であった。7月の説明会では熱中症対策として、リモートで開催した。	運動部の公式戦と説明会の日程が重なり、学校で活動している姿を見せることができないことがあった。開催時期を検討し、ひとつでも多くの部活動を中学生や保護者に見てもらえるようにしたい。また、開催の時期や方法を引き続き検討していきたい。		
ホームページの更新を頻繁に行い、本校を知ってもらうための情報発信に努める。(総務部)	ホームページの更新をこまめに行い、校内の様子や本校に関する最新の情報を掲載するなどして、本校を幅広く知ってもらうための情報発信ができた。また、写真をより多く掲載したり、学校説明会の動画を掲載したりすることができた。	更新頻度が少ないページがある。本校をより知ってもらうためにも、教員間で協力したい。		
生徒指導の充実を図るため、「生徒指導委員会」や「職員会議」において教師間の意思疎通を適切に行うなかで、現在の生徒指導の問題点や現状に合致した規定の改定の協議を進める。(生徒指導部)	定例の生徒指導委員会を月1度行い、情報共有を行った。また、職員会議等で周知することができた。また、校則の見直しについて重点的に取り組み、改定を行った。	引き続き情報共有を行い、職員全体で生徒指導に取り組めるように努めていきたい。		
「保護者会」を開催し、おもに進路指導を中心に保護者との連携を図る。(進路指導部)	3年生は1学期、1・2年生は2学期に実施できた。	卒業生の進路状況など、その都度正確な情報を知らせる。		
「学校保健委員会」を開催し、保護者や学校医も交え、家庭や地域との連携した学校保健活動を展開する。(保健部)	学校保健委員会を開催する予定で校医と日程を計画中。	毎年開催していきたい。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ（教職員）	評価Ⅱ（校園長）
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		3.8	3.8
取 組	成 果	課題と改善策	
実習授業前に必ず集合し、服装や体調の確認を行い、安全に対する注意喚起に努める。(ものづくり機械科)	実習授業前に必ず集合し、服装や体調の確認を行い、安全に対する注意喚起に努め、重大事故がなかった。	課題を達成したため課題無し。	
実習前は全体ミーティングを実施し、服装の確認と体調観察を行う。また、実習の安全意識向上を図る。(電気情報科)	チャイムが鳴る前に生徒自ら主体的に整列できた。実習前の全体ミーティングでは開始時間前に整列が完了し、落ち着いた状態で実施できた。	安全意識を高める機会を設ける。	
「AED」及び「普通救命救急法」の講習会、「避難訓練」などを実施し、教職員及び生徒の防災意識を高揚させ、危機管理能力の向上を目指す。(総務部、保健部)	1年生を対象に救命講習会が開催できた。(保健部)	救急救命の職員向けの研修も実施していきたい。(保健部)	
	救命講習会を管理職・学年・消防署と実施方法を検討し、避難訓練を実施した。今年も校内の防火シャッターを作動させて実施した。さらに、11月に地震・津波防災訓練、講演会を実施した。(総務部)	学年以外の教員の参加を増やすことや意識づけが課題である。防災訓練においては、いろいろな災害を想定して実施するように努めていく必要がある。(総務部)	
安全な学校づくりのために、学校施設の安全点検を各学期に行い、危険箇所の早期発見に努める。(総務部)	今年度は、校内の施設・設備の危険箇所を随時、受け付けるようにし、気づいたことがあればいつでも受付けられるようにした。	随時受付にしてから、危険箇所の報告が少なくなった。安全な学校づくりのために、危険箇所が無いのか、教員間で普段から意識するようにしたい。	
校内外の数か所において、生徒指導部の教員を中心に「自転車安全運転指導」を行う。(生徒指導部)	校内外の数か所において、自転車指導を行い、一定の成果を上げることができた。	引き続き来年度も行い、事故防止やルール遵守に努めていきたい。	

教育目標		評価Ⅰ（教職員）	評価Ⅱ（校園長）
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		3.5	3.6
取 組	成 果	課題と改善策	
各種検定取得に取り組むことで、ビジネスに関する幅広い知識・技術を身に付ける。卒業後の進路決定に役立つよう、より高いレベルの検定資格の取得を目指す。(商業学科)	今年度も1月現在、全商検定9冠取得者が2名出ており、ほかにも多くの生徒が多数1級取得することができた。この結果から大学への進学や就職時にも高い評価を得ている。	上級生による成果（進路実績）を下級生に知らせることで、検定取得へのさらなる意欲向上を目指す。	
各教科で教育目標・年間計画（シラバス）を作成し、目標達成に向け学校全体で取り組む体制を作る。(教務部)	シラバスを作成した。	学校全体で取り組む体制はまだ十分とは言えない。継続的に取り組む必要がある。	

研究テーマ		評価Ⅰ（教職員）	評価Ⅱ（校園長）
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		3.3	3.4
取 組	成 果	課題と改善策	
①検定前に実施する補習時には、担当授業や学年の枠を越え、商業学科全ての教員がその指導に当たり、情報交換を行うことで、生徒の学習理解度等の情報共有を行う。 ②3年生課題研究では、商工会議所や、地元企業と提携し、地域の企業の経営課題改善に取り組む。3年間で身に付けた商業の知識技術を活用でき、地域にも貢献する。また、商業の学びに対する興味関心がより深くなり、自ら学ぶ態度の育成に繋げる。(商業学科)	①検定前に全ての教員が指導にあたることで、生徒の学習理解度も知ることができ、検定の合格率も上がっているように思う。 ②課題研究では、小学校へプログラミングの授業を教えに行ったり、地域の企業の経営課題に取り組むことができた。	①教員間の情報共有をより深め、生徒の学力向上、資格取得に向け効率よく指導できる形を継続して、模索する。 ②新カリにおける新たな教科との関連を考えつつ、継続的な学習や新たな取り組みが行えるよう、外部機関との情報交換を積極的に行う。	
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し、)「研修会」を企画する。(生徒指導部)	生徒指導部としての研修会は実施できなかったが、いじめ対応等の研修を学校として行うことができた。	次年度に向けて計画を立て、研修会を計画したい。	
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し、)「研修会」を企画する。(保健部)	カウンセリングマインド研修を実施できた。校長からの説明により多くの職員が出席できた。	内容を実態に応じてより良くしていきたい。	
人権教育を実りのあるものにするため、教職員向けの人権教育研修会を実施する。(人権教育部)	人権教育部としては未開催である。	職員研修があり、内容が含まれることがあること、また、研修のための予算がついておらず実施は難しいかと考えられる。	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学 校 関 係 者 意 見 等	評価Ⅲ
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む ・1年生の図書館見学により少しでも読書の重要性などを理解してもらうことで、生徒の気持ちが変わるような気がします。アンケートを見る限り図書館利用者はまだまだ少ないようなので今後も生徒が興味を持つような内容で継続していただきたい。 ・マラソン大会はぜひ継続してください。 ・長期休業中・放課後補習については、教員の人数・持ち時間数・教室の確保等課題はあると思いますが、継続して頂きたい。ビブリオバトル等の企画に取り組み、読書についての啓発・促進活動を継続し、図書館利用者、貸出者・貸出冊数の増加を図ってください。 ・先生方の日々の努力に感謝します。	3.3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る ・資格取得の実績は素晴らしく思いました。これからも継続して資格取得を通して自信を高め意欲ある学習に努めていただきたい。 ・インターンシップは将来を意識する上でとても重要な取組みなので、さらなる充実と継続をお願いします。 ・基本的生活習慣確立のための取組等を促進し、キャリア教育を充実させ、生徒の心身共に健全な育成・社会的自立に必要な能力の育成等を図ってください。生徒の進路選択については、専門3学科とも、資格取得を通しての取組でかなりの成果があがっていることは素晴らしいと思います。また普通科においては、更なる進学実績向上を目指してください。今後とも、「生徒が自ら考え、自ら行い、自ら責任を持って」、自主的・主体的に進路選択ができるよう適切なサポートをお願いします。遅刻者に対する「早朝登校指導」の継続をお願いします。いじめアンケート等により、今後とも、いじめの早期発見に努め、いじめ対応チーム会議を定期的・臨時的に行い、情報共有や対応策の協議等を効果的に行ってください。 ・教育にとって一番大切な項目だと思います。インターンシップや資格検定に積極的に取り組んでおり、自己実現の意識が高い。	3.8
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む ・中学生・保護者向けの学校説明会の効果が出ていると思いました。来年度以降もより良い形で継続をお願いします。 ・各学年による三者面談・進路指導部主催による保護者会・学校保健委員会等を通して家庭との連携を深めてください。さらに生徒指導の充実を図るため、「生徒指導委員会」や「職員会議」において教師間の意思疎通を適切に図り、情報共有を行い、職員全体で生徒指導に取り組めるよう努めて頂きたい。また学校説明会・音楽類型体験入学あるいはホームページにおける情報発信等を通してのPR活動を継続し、家庭との連携を深め、家庭・地域・学校から信頼され、活力に満ちた学校づくりを目指してください。 ・家庭・地域・学校の連携を深めるのが、学校にとって必要不可欠であり、十分な取組みがされている。	3.8
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る ・AED及び救命救急講習会、避難訓練、自転車安全運転指導などについては引き続き実施し、救命救急時の対応や防災意識の向上をお願いします。 ・安全教育・防災教育推進の取組を継続して頂きたい。「自転車安全運転指導」の継続をお願いします。 「AED」及び「普通救命救急法」の講習会、「避難訓練」等の継続実施をお願いします。学校施設・設備の安全点検は非常に重要だと思います。今後とも危険箇所の早期発見・改善等に努めてください。 ・防災意識の向上や安心安全な学校生活を送るための取組みがされている。	3.5
■教育目標 ・高いレベルの検定資格を目指し成果をあげています。今後も生徒の希望進路実現を目指してください。 ・商業学科における各種検定取得の取組の中で、高レベル検定取得の成果として、本年度も全商検定9冠（全商検定全科目1級合格）は顕著な成果だと思います。生徒にとって検定取得の更なる意欲向上に繋がっていくと思います。各教科で作成された教育目標・年間計画を積極的に検討し、全職員が共通認識を持ち、学校全体で教育目標の達成に取り組む体制をつくってください。 ・9冠3名は素晴らしい成果です。商業科だけにとどまらず、学校全体として広がるように期待します。	3.5
■研究テーマ ・人権問題にもなっているSNS、スマートフォンの利用については、さらなる研修会、学習会、正しい使い方等の教育をお願いしたい。 ・各種委員会・各教科等での学習指導・生徒指導・人権教育のあり方について、現状や校内のニーズに即した教職員向けの研修会等を継続的に実施し、今後とも教職員の資質向上に努めてください。商業学科の取組として、検定補習・課題研究（商工会議所の企画参加・地元企業との提携・小学校への出前授業等）等でかなり成果があがっているようです。今後とも教員間の情報共有をより深め、生徒の学力向上、資格取得に向けて努力してください。また外部機関との情報交換を積極的に行い、継続的な学習や新たな取組を行って頂きたい。 ・研修会で得た知識をより深く理解し、実践に役立つスキルとして身に付けてほしい。	3.3
評価項目（A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善）	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	A
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	A